

レンタルディング®で時代を拓く

AKTIO

AKTIO

April
No.28

Communication Magazine

■ AKTIO TOPICS

熱中症対策商品をラインナップ

新商品レンタルのご紹介

• Safety Training System VR of AKTIO
インフラメンテナンス作業点検VR

• 伸縮搬送設置リフター ECoCa(エコカ)

■ AKTIO NETWORK

大切なライフラインを独自の「技術力」で支える
岐阜工業株式会社

■ AKTIO SDGs

小学生向け工場見学会

三重いなベテクノパーク統括工場で開催

KEY PERSON

に聞く

成長し続けるAKTIOであるために。

小沼直人社長の考える AKTIOのあるべき姿、進む道。

成長し続けるAKTIOであるために。
小沼社長の考えるAKTIOのあるべき姿、進む道。

昨年は世界的なインフレや記録的な円安など日本・世界経済が大きく動いた1年でもあり、また、コロナ禍が収まりつつある希望が見えながらも、依然経済活動が強く制限された影響が色濃く残る1年でもあった。そのような状況下において、これからのAKTIOは顧客に対し、また建設業界そして社会にどのよう貢献していくのか。

従来のサービスを強化することはもちろん、この先の5年、10年、さらにその先を見据えて建機レンタルの新たなカタチや変革を模索しながら、新しい施策にも果敢に挑み続けるAKTIO。日々社員と同じフロアで業務にあたり、現場の温度感、社員の声、お客様の声、そして世の中の流れを見極める小沼直人代表取締役社長に話を聞いた。

「昨年は小沼社長にとってどのような1年でしたか。」
2022年は、コロナ禍の影響の余波が大きく、まだ先行きが見えないと思っているうちにウクライナ問題が発生、深刻なエネルギー問題へとつながりました。物価高騰、歴史的円安、それに伴う原価のアップ。厳しい日々だったと感じます。しかし1年を通してみると、夏を過ぎた頃には建設業界は正常化に向かっていく実感がありました。社員一人ひとりが頑張った結果が数字に反映されました。この勢いをさらに飛躍させるためにも2023年は勝負の年だと感じます。昨年、半導体問題で機械購入が危ぶまれましたが、実はその少し前に、景況感は悪くないので、機械購入を進めよう、と会長からの後押しもあり、早めの発注ができていたため、限られた在庫を確保でき、勢いを止めずにお客様のニーズに応えることができました。よく「先を読む力がすごいですね」と仰っていたことがありますが、それは会社の体制がしっかりしているからこそ、社員全員の努力があるからこそ経営者が英断

「小沼社長の考える、拡大が見込める重点分野についてお聞かせください。」
昨年から調子がよくなってきている都市圏の大規模工事です。北海道から九州までの都市圏の再開発並びに大型工事の伸長に対し、我々の資産を有効に運用することがポイントになっていきます。全国展開しているメリットを活かし、全国で行われる工事のタイムラグを見越し、機械供給のバランスを調整することが大事で、これまで力を入れてきたテクノパーク、大型の統括工場の効果を出すチャンスです。コロナ禍から昨今の世界情勢を鑑みると、多少コストがかかっても自社でできることを広げておいた方が間違いないと痛感しました。また、2023年度は公共工事におけるBIM/CIMが原則適用となり、建設現場でも急速にデジタル化が進む予定です。この環境変化は、これまでテクノパーク等で培ってきた技術力や知見をお客様へ届けるいい機会になると捉えています。

「建設機械の需要が堅調な一方で、供給面では資材高騰や就業者の高齢化といった問題があります。」
はい、私たちが「技術」に力を注ぐのもその点の解決につながるようにと考えているからです。例えば建設業界の人手不足の問題は、我々が開発した重機の遠隔操作を用いれば、熟練の技術者の技を若手が目前で学ぶ機会を創出し、新人育成に役立ちます。安全な場所から遠隔操作ができるので高齢の技術者の離職を防ぎ、建設業界志望の若者の不安を軽くすることも期待できます。そして、私たちAKTIOとしてはその機械のメンテナンスをする人材確保のため、それをやりがいとして、生きがいを感じられる職場を作り出すこと。若い世代がこの世界に飛び込みたいと思える、人材を育成する場としてテクノパークを重要視しています。電気、エンジンモーター、油圧の3つをすべて研修で扱える場がテクノパークであり、若者が楽しく技術を身につけることができる職場でありたいなと思っています。メンテナンスをし、ストックする、人材教育



代表取締役社長 COO

小沼 直人

NAOHITO KONUMA

1966年東京都生まれ。1992年株式会社アクティオ入社。現場での経験を活かし、代表取締役社長となった今でも現場の声を大切に、自身の考えから新サービス、新商品のアイデアを広げている。

日頃、お客様から直接聞く困りごとや社内から出るアイデアに耳を傾け、社員と近い距離で接する気さくな人柄が誰からも慕われる存在。

KEY PERSON

に聞く

もできる。トレーニングセンターでもあるテクノパークをどう成長させていくか、模索しながらよりよい形を目指していきたいですね。

「お客様に万全なサービスを提供するためには、テクノパークなどの設備投資が必要だったわけですね。」

お客様への安心安全を強固なものにするため、ただの「修理」「レンタル」で終わってはいけなと考えています。例えば最近の乗用車は「衝突被害軽減ブレーキ」「自動ブレーキ」で安全性を高めていますよね。我々が扱うトラックもそういった安全機能を標準装備しようとしています。単価は上がってしまうのですが、現場の交通事故をなくすためにお客様にご理解をいただかなければならぬ重要なポイントです。SDGsなど社会の大きな流れに伴い、日本人の「買い方の価値観」が変わったと「生活者」として感じています。企業も同じようにどの部分に費やしどの部分で削減をするか、見極めるときが近づいていると感じます。買ひ方と同じように「安心安全」への価値観が変わり、よりよいサービスを選んでもらえるよう私たちももっと努力をしなければと感じます。また、レンタル機械の安全性を高めるだけでなく、事故対応についての安心を高めるサービスも模索しているところです。

「建機レンタル業界にこれまでなかったサービスを次々提供されていますが、そのような発想が形になっているのはなぜなのでしょう。」

「レンタル」がアイデア、商材、お客様、世の中のニーズ、すべてを誘導してつなげてくれていると思います。

●仮設陰圧ハウスとは

常に室内を陰圧に保ち、ウイルス対策を施したユニットハウス。抗ウイルスHEPAフィルター内蔵換気装置を通して外へ排気するため、室内の空気は洗浄されている状態を保てます。※別途100V、200V外部電源または発電機が必要です。



お客様の利便性を高めるのと同時に、社員の負担を減らしたいという思いがあったからです。私も1992年に入社してから現場を経験してきましたから、社員の苦勞するポイントには理解しています。例えば受注活動一つをとってもなかなかやり方が変わらず、電話で注文を取り、聞いたことを紙に書く、それを手配のフロントに回す、非常にローテクなまま55年も続いてきました。そういった状況を変え、お客様にとっても発注のミスや時間のロスを防ぐことができる仕組みが「Web注文サービス」です。お客様の困りごと、社内の困りごとを「どうできたらいいの」の思いで見えてきたことや、社員から出たさまざまなアイデアが今、順番に二つずつ開発され、現実になっているという状態です。



「グループ会社が多岐にわたりますが、グループシナジーについて感じていることや今後連携を進めたいことなどありますか。」

実は、当社が積極的に行っている災害協定も同じなのです。自治体がいっ起きるかわからない「いざというとき」のために、建設機械や災害時に必要な発電機等を購入し保持するのは大変です。また、建設機械が「レンタル」されているということもあまり知られていませんでした。橋が落ちた、崖が崩れて道が塞がってしまったなど復旧工事が必要な場合に、あちこちの担当者がいるような建設会社に連絡をし、そこからレンタル依頼が入ると情報が交錯してしまい、実際には10台必要だった機械が、窓口が違う依頼が続くために100台同じ現場に集まってしまいうこともありました。自治体と直接協定を結び、対策本部と直に連絡、確認ができる体制にしておけば機械の重複も混乱もなくなり、当社にはストックヤードがあり、災害時に必要なものが「レンタル」できるということを市町村の方々に知ってもらい、共にBCP対策を考え、行動できるようにすることが理想でした。今現在360の自治体*と協定を結び、有事の際は迅速に機材の供給ができるようになっていきます。*2023年3月11日現在

また、災害協定について報道されることもあり、その街の学生が「そういうことをやっている会社なんだ」と当社のことを憶えていてくれたら嬉しいですね。世のためになることを行い、それが若手のリクルーティングにもプラスに働く、こうしたよい流れを作ることができるのは、創業者の思い、私たち社員の思い、企業としてのポリシーがあるからです。人の役に立って、お客様のためになって、社員

例えば当社のエンジニアリング事業部はトンネル等のプロジェクト案件が多く、グループ会社となった岐阜工業はトンネル事業におけるシエラの高い製品を扱っていて相乗効果があると考えました。我々のレンタル業が工事現場に関わる際、その時点ですべての設計図は完成されていますが、専門分野を持つグループ会社が増えることで、今後は工事の計画段階から参画できる可能性が広がります。工事のスタートからゴールまでできる裾野を増やすことが狙いです。*P6のAKTION NETWORKもぜひご覧ください。

当社は東京発祥で、全国に広がったものの地場で活躍する同業者の方々に敵わない部分があります。現在これだけの物価高騰、相場もどうなるかわからない状況で、地域をつなぐに勝てないことがあるのです。また当社内でも地域差があります。社内の地域差を埋め、これからはより一層ネットワークを広げて、地元のレンタル会社の方々と業務提携などもできたらいいですね。また、個人的には町の自動車修理工場に注目しています。今まさに転換期。電気自動車の修理対応をしていくか、ガソリン車の対応のみをする工場を続けるか。後継者不足も大きな問題です。人生100年という時代、年齢にとらわれず修理の仕事を続けているベテランの方も多くいらっしゃいます。たくさんの方々のノウハウを持っている、町工場の隠れた技術者を支えたい。日本の高度成長期を支えた町の技術者の方々の腕を、後世まで残せるような事業ができたらいいですね。

の労働環境を少しでもよくしたい、と好意が循環し新たなアイデアが生まれる。これも私たちAKTIOらしい、社風の二つだと感じています。

「AKTIOの強み、より磨いていきたい点、やってみようことを教えてほしい。」

「社員のためでもあり、もちろんお客様のため、そして社会のため」の思いを磨いていけば、グローバル企業として成長できるのではないかと考えています。現時点ではまだまだ国内の活動で一杯ですが、海外、そして国内での認知をより深めて、いずれは「なくてはならない企業」になりたいなと思っています。

繰り返しになりますが、今後は確実に人口減少、働き手の不足が大きな問題になるでしょう。そんなときに私たちはテクノパークの機能と目的を適宜見直し、今後は長野、東北、北関東、新潟の日本海側などに新設して、ネットワークの拡充をしていきたいと思っています。

我々は今、先を見据えてさまざまなアイデアをかたちにするため、実験的な取り組みを含め新しい施策を仕込んでいる最中です。先ほどお話ししたWeb注文サービスなど、これまでローテクだった部分の改革は高齢層のお客様には慣れていたかもしれませんが、時間が経つにつれて時間も減り、普及に時間がかかったとしても、これからの建機レンタルサービスの未来をよりよいものにしていくために市場や社会を見通し先んじて動くことが大切だと考えています。

「コロナ禍やウクライナ情勢など、予測もつかないようなことが起つたとき、小沼社長はどう対処してきたのでしょうか。」

ジタバタしても仕方がないので、この状況で何ができるか、その場で自身が変わるしかないと考えています。そのマインドがあったからこそ、新型コロナウイルス感染症の流行で病院がパンク状態になってしまったときに「仮設陰圧ハウス」が誕生しました。東京都内は病院自体は数多くありますが非常に狭い。そこに感染の疑いのある人もそうでない人も同じ入口から入ってしまうと院内感染は防げません。病院自体が狭くても、駐車場を利用すればクラスターを防げるのではないかと考えました。東日本大震災の復旧作業時に作業員の方が休む休憩室を当社で作ったため、あれを応用しようと思案しました。社内のアイデアや事例のマッチングが新たな商品、サービスを生み出した好例です。ここで「レンタル」がキーワードになります。仮設陰圧ハウスも、生産・販売では実現しなかったと思うのです。病院も購入後必要なくなったら困ると考えるでしょう。



「最後に、小沼社長がお仕事上で大切にしていることを教えてください。」

大切にしていくことは、「約束を守ること」、「時間を守ること」です。時間には誰にでも平等にあるものです。その時間をお互いが共有するときには、双方が相手に敬意を持って無駄のないように配慮することが大切だと思います。

例えば上司が長々と指導をするのも部下の貴重な時間を奪いかねません。逆に部下が上司に冗長な報告や相談をすることも同様です。お互いの敬意や配慮が「時間を守る」ことにつながり、本当の意味での効率化や信頼につながると考えています。

それから、「即実行」ということも心がけています。アイデアがあるなら考えている時間があったら、できることはすべてやる、後回しにしない、即実行です。

お客様の課題、社会の要求に添っていくことが私たちの使命です。「AKTIO」がいてくれて本当に良かったと仰っていただけるために「安心」「安全」をキーワードに多くの投資もしています。それは今後も変わりません。すべては「AKTIO品質」を維持し、「提供し続ける」ためです。これからはぜひ、AKTIOを選んでいただければと思います。



圧倒的なシェアを誇る、岐阜工業の事業内容

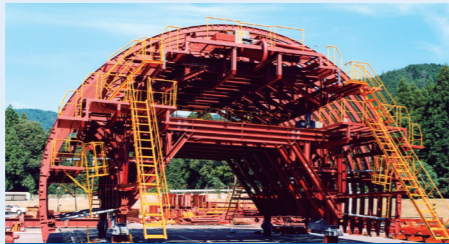
●トンネル用型枠の国内シェア約70%

施工品質の向上、工期の短縮、さらに現場の安全性の向上を目指して。常識にとらわれない発想で、トンネル工事や橋梁・橋脚工事に、革新的な進化をもたらす多彩な製品を開発している。



スチールフォーム

覆工や支保の役目を果たす、取り外し可能な型枠。



スライドセントル

型枠表面は、既製品のメタルフォームを使用した軽量・低価格の型枠。



インバート棧橋

トンネルインバート施工用移動式棧橋。



昇降台付作業台車



トンネル補修工事用機械



後続台車

●現場のニーズに応える製品開発力

自走式ターンテーブルは狭いトンネル工事の現場において、ミキサー車などの反転を補助する装置。日本で初めて自走式を開発、作業効率を大幅に高めることに成功した。



令和4年度 日本建設機械施工大賞 大賞部門 優秀賞を受賞!

●トンネル覆工コンクリート用自動化セントル

山岳トンネルの覆工コンクリート施工は、ここ数十年、作業の手順や作業人数に大きな変革がなく長らく人力作業に頼ってきた。覆工作業は、一般にトンネル断面と同形の大型鋼製型枠(以下、セントル)を使用し、6人ほどの作業員が2日に1回のサイクルで覆工打設を行っている。しかし、狭隘な空間での苦渋作業も多く、さらに作業員の高齢化や技能者不足を背景に、現場での施工品質の低下が危惧されており、作業の生産性向上が強く求められていた。そこで、覆工作業に係る一連の作業工程(①セントルを所定位置にセットする作業、②覆工コンクリートを打ち込む作業、③セントルを脱型し次へ移動する作業)を機械制御のみで行えるように自動化し、作業を安全かつ効率的に実施できる「自動化セントル」を開発した。本技術は、従来の半分ほどの2~4人の作業員まで省人化でき、さらにこれまでと同じ施工精度と品質を保ちつつ、現場作業の生産性を上げることを実現した。



岐阜工業株式会社

欠かすことのできない大切なライフラインを 独自の「技術力」で支える

岐阜工業は、1973年の設立以来、トンネル工事における施工品質の向上や工期の短縮、安全を第一に考えた多彩な建設機械の開発で、世界各地のトンネルづくりに貢献してきた。トンネル用型枠の開発・製造・販売を行い、国内シェア約70%を占める業界のリーディングカンパニーである。2016年にアクティオグループに加入してからは、AKTIOのエンジニアリング事業部と共に、セントルの全自動化を測量変位計測と遠隔自動制御で実現。「ものづくり企業」として、人と社会に貢献するという企業理念のもと、「先進的な開発力」「卓越した技術力」「専門的な人材力」を結集させ、着実な成長を続けている。

| | |
|-------|-----------------------------|
| 会社名 | 岐阜工業株式会社 |
| 本社所在地 | 〒501-0304 岐阜県瑞穂市田之上811番地 |
| 設立 | 1973年 5月 |
| TEL | 058-257-1000 |
| FAX | 058-257-1013 |
| 従業員数 | 210人 ※2023年1月1日現在 |
| 事業拠点数 | 本社 工場2店舗 支店1店舗 営業所3店舗 |



AKTIO TOPICS. 2

商品コード:ZVJ 00001 001

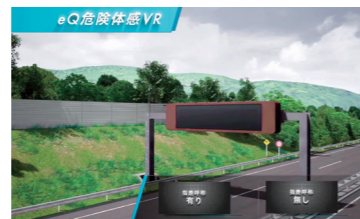
安全教育システム「Safety Training System VR of AKTIO」

新開発のインフラメンテナンス作業点検VRを追加リリース

「Safety Training System VR of AKTIO」は高画質5K解像度のスーパーリアル映像によって“危険を、安全にリアル体験する”ことができる安全教育システムで、今回インフラメンテナンス作業の点検に特化したVRを追加リリースした。事故体験シナリオは、墜落編として「はしご作業」と「情報板作業」、感電編として「ポンプ取換」、接触編として「車両後退」の4つのVR映像を開発。このシステムにより、作業員の人命を守るために一層効率的で効果的な安全教育の提供が可能となる。



【墜落編】
はしご作業:
 電気室のダクトの確認作業
 はしごを固定せず安全確認を怠り、はしごから墜落する事故を体験できる。



【墜落編】
情報板作業:
 情報板の点検作業
 安全带をつけず、強風に煽られたため墜落してしまう事故を体験できる。



【感電編】
ポンプ取換:
 常設型ポンプの取り換え作業
 検電確認をせず、取り換えポンプを誤った結果の感電事故を体験できる。



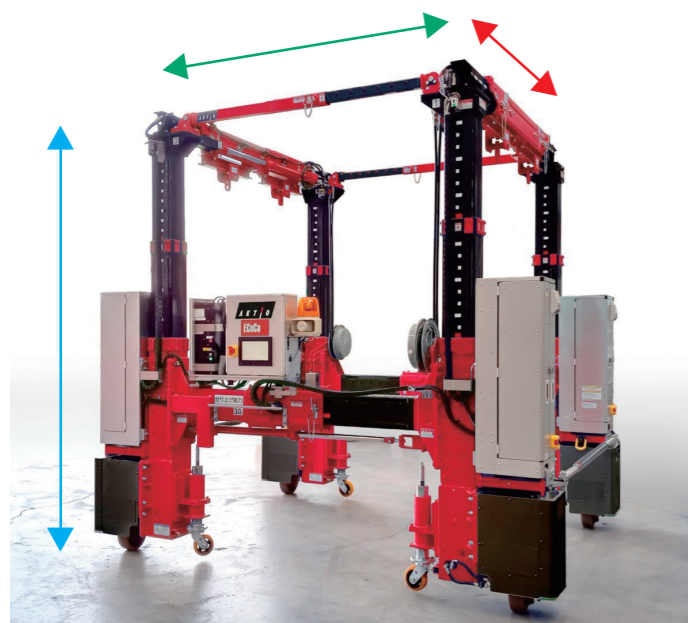
【接触編】
車両後退:
 業務終了後、駐車場への駐車誘導員を配置せず車両後退した結果、接触事故を起こしてしまう状況を体験できる。

AKTIO TOPICS. 3

商品コード:DDT 30003 001

プラント建設現場で機器の運搬・据付を効率化

伸縮搬送設置リフター ECoCa (エコカ) をレンタル開始



AKTIOはプラント建設工事現場などで機器の運搬・据付を効率化する施行ロボット「エコカ」のレンタルを開始した。「エコカ」は機器のサイズに合わせて3方向に伸縮でき、四輪操舵・平行移動・超信地旋回の走行機能を持ち、最大3tまでの設備機器の運搬・据付を1台で実現する。投入実績として、清掃工場での約2tの機器据付工程において「60%の省人化」「85%の時間短縮」*を確認。プラント工事の生産性向上と省力化、安全性向上に貢献する。
*JFEエンジニアリング施工実績

伸縮幅
X軸:1.4m~1.8m(伸縮幅:0.4m) / 1.8m~2.4m(伸縮幅:0.6m)*
Y軸:3.0m~3.7m(伸縮幅:0.7m)
Z軸:2.0m~3.2m(伸縮幅:1.2m)
*オプションのXビームに換装時

走行機能

四輪操舵(4WS)

平行移動

超信地旋回

AKTIO TOPICS. 1

猛暑に備えて作業員を守る

夏の現場に欠かせない熱中症対策商品をラインナップ

今年も猛暑が予想されており、建設現場においては早めの熱中症対策や夏バテ対策が肝要だ。AKTIOでは、オリジナル商品を含め、対策商品を豊富にラインナップ。作業員の健康維持と作業の効率化に貢献していく。



オフグリッドシステム搭載
 移動オフィスカー(軽バン仕様)

商品コード SZY

軽バン内部に机と椅子を設置。コンパクトな車両でありながら、座って事務作業ができる構造になっている。大容量リチウムイオンバッテリーが搭載されており、移動事務所や夏場の熱中症対策の休憩室として活用可能。



冷える〜む2

商品コード T4T 2230A 001/T4T 3330A 001

循環式クーラーで、テント内を効率よく冷やすことが可能。テントは少人数で簡単に組み立てられ、折り畳めばコンパクトに収納できる。持ち運び用のキャスターが付いており、移設も簡単。



3Dミストファン

商品コード NM3 01502 001

縦旋回、横旋回、仰角コントロールの3軸で、あらゆる方向にミストを散布可能。トンネル内や採掘構内といった、熱気がこもりがちな夏場の作業現場で、広範囲にわたって効率よく霧を噴射することができる。



クールミスト

商品コード NLL 17000 003

水道水等を気化しやすい30ミクロンほどの微細なミストにして散布。ミスト蒸発による気化熱で周辺の温度を下げる。水タンク型なので、簡単に移動できる。



熱中症予防表示パネル

JIS B 7922適合規格品

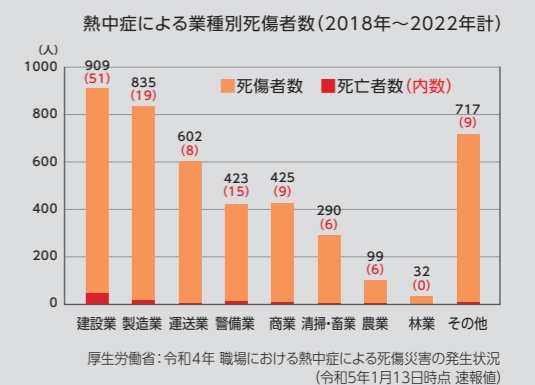
商品コード RN3 00500/RN3 00600

WBGT(暑さ指数)をリアルタイムで測定し、表示。現在の熱中症危険度と熱中症予防策がひと目でわかる。測定ユニットと表示パネルは無線でつながり配線が不要なため、どこにでも設置しやすい。

コラム

甘くみてはいけない熱中症 -死傷者数は「建設業」がトップ-

熱中症による労働災害は例年多く発生しており、過去5年間の業種別の死亡者数は建設業が最も多くなっています。月別の熱中症による死傷者数をみると、全体の約8割が7月から8月にかけて発生しており、特に梅雨明け直後と夏休み時期明けに多く発生しています。また、体が暑さに順応できていない6月から発生していることにも注意が必要です。本格的な夏を迎える前から計画的に熱中症の予防対策をし、重大な事故が起きないようにしましょう。WBGT指数計で作業現場の熱中症リスクを把握すること、熱中症警戒アラートの発表に注意し徹底した予防行動をすることが大切です。



AKTIO SDGs

AKTIOのSDGsの取り組みをご紹介します。

小学生向け工場見学会を三重いなベテクノパーク統括工場で開催



AKTIOは、2023年3月25日に「アクティオ三重いなベテクノパーク統括工場」において、小学校高学年を対象に工場見学会を開催した。公募による工場見学会としては初開催となる。



今回の工場見学会では、テクノパーク内のメンテナンスデッキ(建物上部にある狭い通路)をまわる工場ツアーをはじめ、AKTIOが所有する大型バックホーやクレーン車などのさまざまな大型建設機械が動く様子や線路の上を走る軌陸車の見学、強風が吹く大型ファンや消防ホースの体験などを実施した。また、建設機械レンタルが建設業界や社会、さらには環境に対してどのように役立っているのかを子どもたちにわかりやすく説明。使用済み食用油を再利用するバイオディーゼル燃料についても紹介した。今後は、地域貢献のため、全国のテクノパークで工場見学会を開催していく。

「SDGs for School」の活動を支援 We Support

AKTIOは、「SDGs for School」のパートナー企業としてその活動を支援することで、目標4「質の高い教育をみんなに」の達成に貢献します。 **SDGs School**

「SDGs for School」とは、国連、大学、企業、NPOなどとパートナーシップを組みながら、持続可能な社会創生のために創造的な教育や行動を推進する先生と生徒を応援するプロジェクトです。

AKTIO ACTIVITIES

AKTIOが提供するさまざまなプロジェクトをご紹介します。

AKTIOの「いま」をお届けするアクティオ LINE 公式アカウントを開設

AKTIOは、LINE公式アカウントを開設し、商品やサービス、イベント情報などの配信を開始した。「アクティオ LINE 公式アカウント」をお友達登録することで、AKTIOの最新ニュースをいち早くキャッチすることが可能。オリジナルWebメディア「レンタルマガジン」の記事紹介なども行う。お客様はもちろん、幅広く一般の方々にも、AKTIOの「いま」をお届けしていく。



AKTIO PEOPLE 輝け! AKTIO人

いきいきと働くAKTIOの仲間たちを紹介するこのコーナー。今回は解体新潟センターより、嬉しい合格と受賞をご報告。

新潟県技能競技大会で見事1位受賞

阿部さんは、2022年12月に建設機械整備技能士1級に合格。また、この試験は「新潟県技能競技大会」を兼ねており見事1位を獲得した。受験にあたり学科はAKTIOのeラーニング、実技は長野工場の講習で学び、優れた成績を収めた。今後の目標として「確実な点検、整備、修理をして品質の良い完成品をつくり、機械出庫時のクレームやトラブル削減につなげていきたい」と語ってくれた。



解体事業部 解体新潟センター 主事 阿部 優也 さん 2019年入社

AKTIO TOPICS. 4

災害時の非常用電源にも最適!

カセットガス式インバータ発電機 販売キャンペーン実施中!

株式会社工進のカセットガス式インバータ発電機「GV-9ig」をお得に購入いただけるキャンペーンを実施中。「GV-9ig」は初めてでも扱いやすいカセットガス式インバータ発電機で、家庭用電源と同等の良質な電気の供給が可能。屋外で各種家電製品に安心して使用できる。



9月30日までのキャンペーン特価

GV-9ig: 85,800円(税込)
エンジンオイル・ボンベ2本付

※屋内での使用はできません。発電機のマフラーから出る排気ガスには一酸化炭素が多く含まれておりますので、屋内や、屋外でも換気が悪い場所でのご使用は、一酸化炭素中毒を招く恐れがあり大変危険です。

- 特長
- 驚きの高出力!カセットガス交換で連続運転(ボンベ交換時は停止)
 - 誰でもカンタン!カセットガスで直ぐ発電。直前の蓄電不要
 - JIA 認証カセットボンベをメーカー問わず使用可能
 - 国土交通省指定「超低騒音型建設機械」

AKTIO TOPICS. 5

政府の災害対策施設で、災害時向けレンタル機材を紹介

AKTIOは2023年1月12日、政府の災害対策本部予備施設である立川防災合同庁舎においてレンタル機材の見学会を実施した。立川防災合同庁舎は、首都直下地震などで都心の総理大臣官邸などの拠点が使用できなくなった際に政府の緊急災害対策本部が設置される施設。この日は、各省庁のBCP(業務継続計画)担当が集まり、有事に速やかに政府の緊急災害対策本部の機能を確保できるように研修が実施された。その中でAKTIOは災害時のためのレンタル機材を紹介。各機材を実際に見てもらい、参加された方々から高い評価を得た。



研修の様子

多くの注目を集めたオフグリッドオフィスカー

当日の様子をこちらの動画で紹介しています▶



AKTIO TOPICS. 6

いつでもどこでも請求書を確認できる

電子請求書サービス(WebBureau)を提供

AKTIOは、電子請求書サービス(WebBureau「ウェブビューロー」)を本格導入した。顧客に郵送していた紙の請求書と請求総括表を電子化し、PDFファイルとしてWeb上に保管。24時間いつでもどこでも、PCやスマホから確認することができ、Webから申し込めばすぐに無料で利用できる。これまで行ってきた紙での請求書発送を電子化することで、ペーパーレス化の実現や、作業効率の向上に貢献する。



PCやスマホで確認できる電子請求書

導入3つのメリット

- メリット1 請求書が締日の翌日に届く※1
⇒ 時短・作業効率アップ!
- メリット2 過去1年間の請求書も確認できる※2
⇒ 紛失の心配なし!
- メリット3 郵便都合で到着の遅延なし
⇒ 予定通りの処理ができる!

※1 弊社の都合により、運用スケジュールが変更になる場合があります。
※2 電子サービス導入以降の請求書が対象です。



今日も
ごあんぜんに
みんなで守る、みんなの安全

+ 今回のテーマ
交通事故をなくしましょう!

日頃の安全対策に役立つ情報をご紹介します!
一人ひとりがしっかりと意識を持って、安全な職場を実現していきましょう。

交通事故を起こさないために

新入生が登下校を始める4~5月は、小学生の交通事故が多くなる時期です。
また、梅雨に入ると雨の日が増え交通事故のリスクが上がります。
こんな時期には今一度、事故を起こさないためのポイントを確認し、交通ルールの遵守とゆとりを持った行動を心がけましょう。



- **交通法令を遵守しましょう。**…………… 一般ドライバーのお手本に!
- **安全運転を励行しましょう。**…………… 防衛運転も心がけて!
- **思いやり運転を実施しましょう。**…………… 建設車両のイメージアップに!
- **建設車両運転者としての自覚を持ちましょう。**… 現場を代表する一員として!
- **飲酒・過労運転は絶対にやめましょう。**…………… ドライバーとして当たり前の行動を!

交通事故防止対策

① 現場の安全運転管理体制の確立

- **施工体系図を基本にしましょう**
- 発注者名 ■ 工事名 ■ 元請会社名 ■ 統括安全衛生責任者名
- 元方安全衛生管理者名
- 協力会社名(専門工事業者)と請負工事内容及び工期
- 各社安全衛生責任者 ■ 安全運転管理者 ■ 運行管理者
- **交通事故は警察署(110番)、現場事務所に速報しましょう**
- 警察署(110番) ■ 元請現場事務所
- 店社関係部門(元請、協力会社) ■ 発注者 ■ 消防署(119番)
- 救急病院 ■ 労働基準監督署 ■ 道路管理者 ■ 公共施設
- 関連企業(電力・通信・ガス・上下水道・鉄道・バス)

② 新規入場者教育を忘れずに

- **工事の概要、現場の特徴やルールを必ず伝えましょう!**
- ・周囲の環境、地形、交通環境、立入禁止区域等
- ・道路使用許可条件の周知 ・近隣住民との協定の周知
- ・発注者からの指示、要望事項
- **運行上での注意事項の確認**
- 現場内** ・制限速度 ・積載制限荷重 ・積載方法
- ・積載重量測定方法 ・土砂の落下及び飛散防止方法
- ・安全通路及び誘導方法 ・駐車場及び駐車方法
- 現場外** ・学童通路、踏切、見通しのきかないカーブ、住宅街の交差点等の危険箇所の注意事項と対応
- ・駐車場、待機場所とルート及び待機方法、待機時のルール等

③ 運行開始前に、1日1回の日常点検を

- 車の周囲を回ってタイヤ、ホイール・ナット、ランプ等の異状の有無を点検する
- エンジンルームを見てウォッシュ液量、ブレーキオイル液量、冷却水量、エンジンオイル量等を点検する
- 運転席に座ってブレーキ、ワイパーやエンジン等の作動を確認する

④ 基本的ルールの遵守

- 携帯電話、割り込みなどルールに反する運転はしない
- 制動距離等、車両の特性を確認しておく
- 出発前に免許証・車検証・シートベルトの確認を
- 運転に適した服装、履物の着用

⑤ 安全意識を高め、心も体も健康に

- **運転する際は安全意識を高めましょう。危険予知訓練を忘れずに**
- ▲ 急ブレーキ ▲ 急発進 ▲ 急ハンドル ▲ 速度超過
- ▲ 脇見運転 ▲ 居眠り運転
- **安全運転はハンドル操作だけではできません。心も体も万全の状態を保ちましょう**
- 健康診断を受けていますか? 持病の治療はしていますか?
- 疲労の蓄積はありませんか? 心配事はありませんか?
- アルコールの影響はありませんか?

編集後記

妹から満開の桜の写真が送られてきました。その写真の中には、地元でも桜がキレイで有名な田村神社がある坂も入っていました。福島と宮城の県境に近いかつての「斎川宿」近くに、坂上田村麻呂を祀った「田村神社」があります。境内にある「甲冑堂」には、源義経の身代わりとなって戦死した家臣の佐藤継信と忠信兄弟の妻、楓と初音の勇ましい甲冑姿の木像が納められています。二人の妻は、息子を想い心痛めていた老母を励まそうと、兄弟の形見の甲冑をまもって戦からの凱旋を装い、なくさめたのだといわれています。今でも覚えている小学校の校歌の中にも甲冑堂の話が出

てきます。「荒城の月」を手がけた土井晩翠さんの作詞です。
一、永く青史に伝うべき 孝女二人の物語
その面影を蔵めたる 甲冑堂のあるところ
我が学園は基をおく
小学校は廃校になってしまったのですが、校歌を思い出すと地元の風景が頭に浮かび、田村神社で友だちと話したり、神様にいろんなお願いをしたことなどが思い出され、心が温かくなります。遠く離れていても、やっぱり自分が育った地元への愛は、薄れることはないかと改めて実感しました。

広報部 成澤



今号の表紙写真

お客様の課題、社会の要求に
応えていくため、日々最先端
の技術を追うAKTIO。
そんなAKTIOの新たなチャ
レンジや今後目指すことを、
近未来を感じる建築物の写
真の「未来へ、上へ向かって
いく」イメージを重ねて表現
しました。ぜひ今号の特集を
ご覧ください。